九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[16]文學研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/2557041

出版情報：文學研究. 16, 1936-07-28. 九州文學會
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

であつて、獨逸語學界における劃期的な企といふことができる。元來前綴のもつ細かなニュアンスを味倒するのは獨逸語を學ぶ者の困難とする所であるが、本書では前綴の意義は Paul-Euing, Deutsches Wörterbuch に準據して分析されてゐるのみならず、前綴をもつ動詞はすべてこれと夫々照應して說明されてゐるのである。例へば ver- といふ前綴を幾多の項目に分つて分析し、ver- を有する複合動詞、たとへば

ver-halten*「〈〈〈」1)《ver.1d》(zuhalten) 塞ぐ. 2)《ver.3》a)(方) 支〈る; 維持する。b)ヰ,(方) sich〜, 留まる, 滯在する。c) 當〈る, 當する, 我慢する; 下男……

更に又この例にも見られる樣に、綴の切り方を示し、右肩の＊印にて强變化又は不規則變化動詞なることを示し、類語、反對語を揭げたこと等著者の細かい心盡しの程が伺はれる。

以上の外本辭典の特色は多くあるが、本書を手にすれば直ちにわかることであるから割愛することにする。

私は本書を手にして、前にも述べたことであるが、一頁一頁にじみ出る樣な日本語に對する先生の愛と理解に深い敬意を表はすと共に、この一事をもつてしても一般語學研究者の机上を飾る價値があると信ずるものである。（白水社、並製四圓、特製五圓）

（犬山朴）

彙報

獨文學會

「獨和言林」出版祝賀會

佐藤助教授著「獨和言林」の誕生を機として六月二十日（土曜日）新三浦において祝賀會を行ふ。小牧教授、佐藤助教授、內藤講師、獨文關係卒業生、學生多數出席。

支那學會

一、五月十六日（土）、新入學生歡迎兼會員懇親ハイキングを基山に試む。

一、六月十日（水）、午後七時半より支那留學中の山室三良副手の歡迎座談會を、橋口町風洲屋階上に開催す。山室副手より支那學界、特に北平哲學界の現狀の詳細なる報告あり、種々會員間に質問あつて、十時盛會裡に閉會。

一、六月二十日（土）、午後一時より第二學生集會所に於て例會開催。庄野副手の卒業論文發表あり。

題目「沙門法琳の研究」。

受贈雜誌

湘南國語研究會誌（湘南國語研究會）
言語問題（言語問題談話會）
太鼓（現代文化社）
中國文學（中國文學研究會）
動物文學（白日莊）
長崎談叢（長崎史談會輯　藤木博英社）
明治文學攷（明治文學研究會）
演劇學（文學社）
臺大文學（臺大文學編輯部）
火星（火星發行所）
石段（石段社）
天の川（天の川發行所）
英語研究（研究社）
英語青年（英語青年社）
音聲學協會會報（音聲學協會）
皇學（神宮皇學館館友會）
國漢研究（名古屋國文學會）
國語教室（文學社）
國語教育（國語學研究會）
國語研究（國語學研究會）
國語・國文（星野書店）
心の花（竹柏會出版部）
農民文化（東京農大出版部）
方言（春陽堂）
帚木（帚木の會）
ポトナム（ポトナム發行所）
水甕（水甕社）
江戸時代語研究（江戸採訪會）
立命館文學（立命館出版部）
國文學攷（廣島文理大國語國文學會）
エルンテ（東京帝國大學獨逸文學研究會）
カスタニエン（京大獨逸文學研究會）